

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
0 建築物の環境品質								3.1
Q1 室内環境			0.40					3.1
1 音環境		2.6	0.15	2.7	1.00			2.7
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40			
1.1.1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00			
1.1.2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		3.0	0.40	3.3	0.40			
1.2.1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30			
1.2.2 界壁遮音性能	D-50以上採用した計画とします。	3.0	-	4.0	0.30			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20			
2 温熱環境		2.2	0.35	3.0	1.00			2.9
2.1 室温制御		2.2	0.50	3.0	1.00			
2.1.1 室温設定		3.0	0.63	-	-			
2.1.2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
2.1.3 外皮性能		1.0	0.38	3.0	1.00			
2.1.4 ゾーン別制御性		3.0	-	3.0	-			
2.1.5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
2.1.6 個別制御		-	-	-	-			
2.1.7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
2.1.8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-			
3 光・視環境		1.9	0.25	2.7	1.00			2.6
3.1 昼光利用		3.0	0.30	2.4	0.50			
3.1.1 昼光率		3.0	0.60	3.0	0.50			
3.1.2 方位別開口		-	-	1.0	0.30			
3.1.3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20			
3.2 グレア対策		1.0	0.30	3.0	0.50			
3.2.1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
3.2.2 昼光制御		1.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15	-	-			
3.3.1 照度		3.0	1.00	-	-			
3.3.2 照度均斉度		-	-	-	-			
3.4 照明制御		1.0	0.25	-	-			
4 空気環境		4.2	0.25	4.2	1.00			4.2
4.1 発生源対策		5.0	0.60	5.0	0.63			
4.1.1 化学汚染物質	F を90%以上採用。他のVOCも少ない計画とします。	5.0	1.00	5.0	1.00			
4.1.2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.1.3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4.1.4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38			
4.2.1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
4.2.2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33			
4.2.3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
4.2.4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		-	-	-	-			
4.3.1 CO ₂ の監視		-	-	-	-			
4.3.2 喫煙の制御		-	-	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			2.8
1 機能性		3.0	0.40	2.4	1.00			2.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.60	2.0	0.60			
1.1.1 広さ・収納性		-	-	-	-			
1.1.2 高度情報通信設備対応		-	-	2.0	1.00			
1.1.3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		3.0	0.40	3.0	0.40			
1.2.1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50			
1.2.2 リフレッシュスペース		-	-	-	-			
1.2.3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50			
1.3 維持管理		-	-	-	-			
1.3.1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-			
1.3.2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.1	0.31	-	-			3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-			
2.1.1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2.1.2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.33	-	-			
2.2.1 躯体材料の耐用年数	構造躯体劣化対策等級3を取得する計画とします。	5.0	0.23	-	-			
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-			
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	更新必要間隔を16年～25年とする計画とします。	4.0	0.09	-	-			
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の2種類以上にC以上を使用する計画とします。	4.0	0.15	-	-			
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.3 適切な更新		-	-	-	-	
2.4 信頼性		3.2	0.19	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	多様な通信手段を設置し、精密機器の地下設置をしない計画としま	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性		2.8	0.29	3.0	1.00	2.9
3.1 空間のゆとり		-	-	3.0	0.50	
1 階高のゆとり		-	-	3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		-	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		2.8	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2 給排水管の更新性		2.0	0.17	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6 バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出	一部の既存樹を保全し、新たな緑地を計画します。	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮	一部の既存樹であるヒマラヤスギを残し、景観の継承に配慮します	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	3.7
1 建物の熱負荷抑制		3.0	0.40	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.20	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化	潜熱回収型給湯器を採用する計画とします	4.9	0.40	-	-	4.9
4 効率的運用		-	-	-	-	-
4.1 モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護		2.2	0.15	-	-	2.2
1.1 節水		1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2 雑排水再利用システム導入の有無		3.0	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.0	0.63	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.21	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		1.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げが容易に分別可能な計画とします。	5.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.5	0.22	-	-	3.5
3.1 有害物質を含まない材料の使用	有害物質を含有しない壁紙用接着剤を使用します。	4.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-	
1 消火剤	ハロン消化材を一切使用しない計画とします。	4.0	0.33	-	-	
2 断熱材		3.0	0.33	-	-	
3 冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮	CO2排出低減に配慮した計画とします。	4.8	0.33	-	-	4.8
2 地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	ディスプレイシステムを採用し生ゴミの減容化する計画とします。	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	